令和５年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年10 月10 日
枚方市立第四中学校

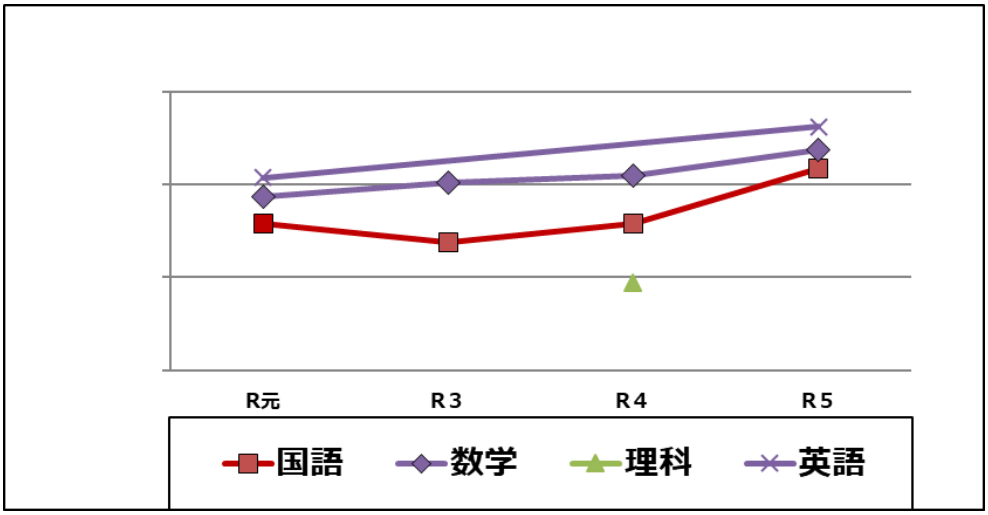
文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校の経年比較をお知らせします。



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和 3 年度、令和 5 年度は未実施の為、掲載していません。

＜学力調査結果の概要＞

〇国語について
→自分の意見を記述する力に課題がある。資料の目的や意図を推測するなどの知識は定着している。

〇数学について
→単純な計算問題などは十分に定着している一方、用語の厳密な定義の理解などが不十分である。

〇英語について
→自分の意見を英語で記述するなどのアウトプットに課題がある。基本的な知識は定着している。

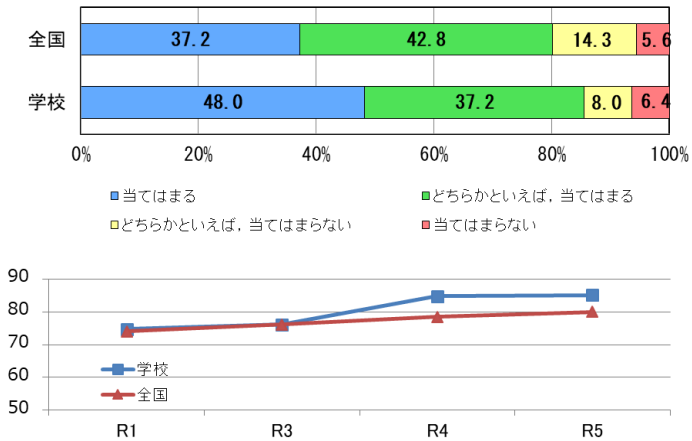
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

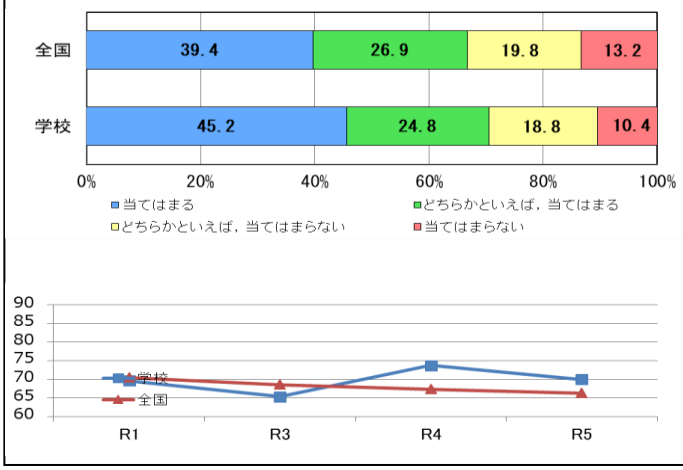
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

全国
本校

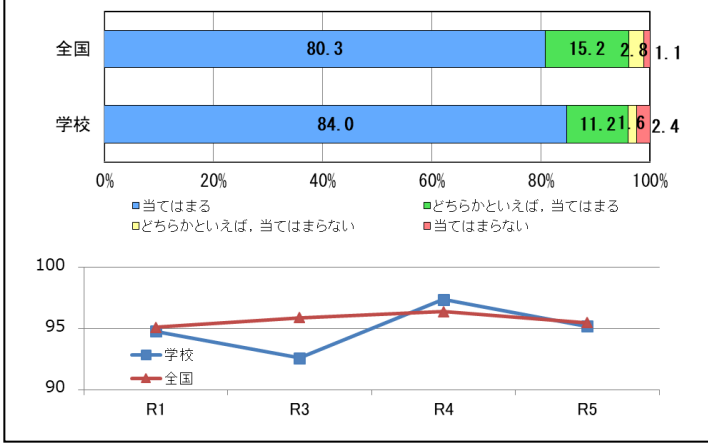
自分には、よいところがあると思う



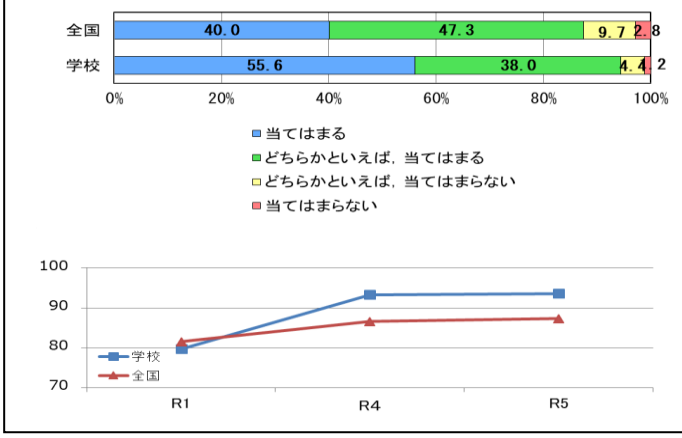
将来の夢や目標を持っている



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



＜質問紙調査結果の概要＞

四中の生徒にとって教員との関係性、信頼性はおおむね良好だという結果になった。教職員研修等を通して、生徒がより自己肯定感を高く感じることができるように、自分の良さを感じられるようなカウンセリングマインドをもった指導を行うことを学校全体で取り組んできた成果ととらえることができる。

また、規範意識についても、人権教育に力を入れている中で改善が見られた。

まとめ

学力調査については、全国平均値と比しても良好な結果となっている。これは日ごろの授業で個に応じた指導や協働的な学習に力をいれてきた成果ととらえることができる。

質問紙調査については、読書習慣や規則正しい生活について課題が見られた一方で、教員との関係性の良さや規範意識については取り組みの成果が表れている。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

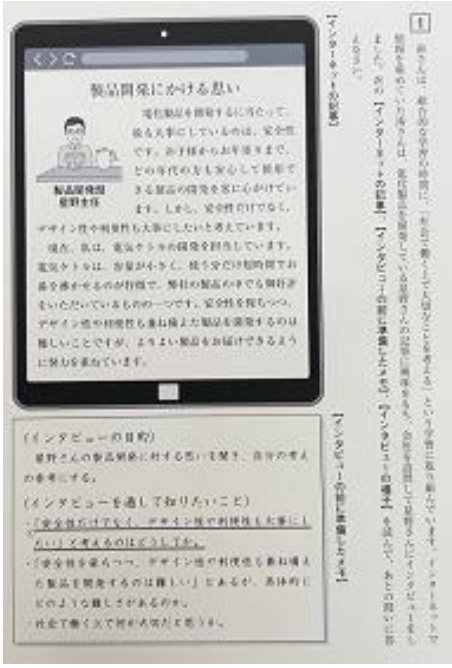
教科に関する調査

＜国語＞

成果や課題があった設問

【成果】

要点メモについての説明を選択する



	正答率	無解答率
本校	94.4%	0.0%
全国	87.5%	0.1%

（考察）

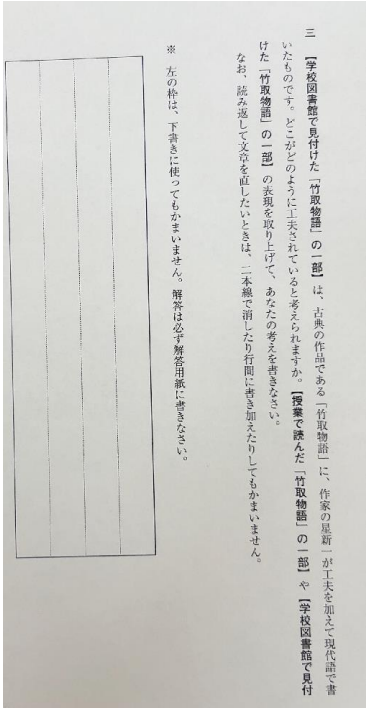
目的や場面に応じて質問する内容を検討できているかを問う設問である。

インタビュー前に用意したメモが状況に応じた検討をふまえた内容となっていうか判断させる問題となっている。

日ごろから授業の中で、資料を検討する際に、判断の根拠となることがらを明確にする指導や、それに至る過程を言語化させる指導などを行っている成果があらわれていると考えられる。

【課題】

現代文の工夫された部分を古典と比較して書く



	正答率	無解答率
本校	62.5%	13.7%
全国	50.0%	20.7%

（考察）

文書の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えられるかどうかを問う設問である。

翁が作成した道具を具体的に例示したり、現在の書物がこれらの表現をどのように工夫して記載しているかを問われている。

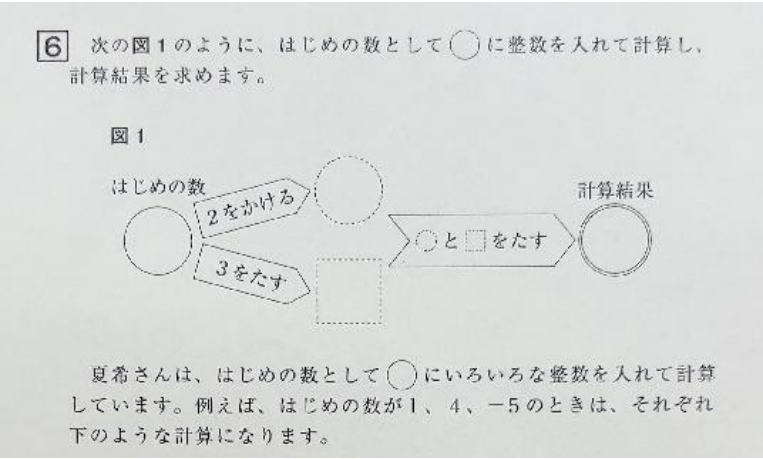
授業の中でも複数の資料を比較しながら検討を行う活動を取り入れているものの、生徒の練習量が不足し、誤答や無答が増えたものと考えられる。

＜数学＞

成果や課題があった設問

【成果】

規則のしたがって、計算を行う



6 次の図1のように、はじめの数として◯に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。

図1

夏希さんは、はじめの数として◯にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、−5のときは、それぞれ下のような計算になります。

	正答率	無解答率
本校	94.4%	1.6%
全国	88.9%	2.4%

（考察）

例示された計算規則をもとに、計算結果を代入計算によって求める設問である。

簡単な計算規則を文章から理解し、それに基づいて実際に実験を行うという、思考力や判断力を必要とする問題になっている。

授業の中で、教科書に与えられている問題だけにとらわれず、思考力や判断力を問う発問や、生徒に創意工夫や試行錯誤をさせる場面を意図的に取り入れる授業づくりを行った成果が表れていると考えられる。

【課題】

「自然数」の定義

1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

ア　−5

イ　0

ウ　3

エ　4.7

オ　9

	正答率	無解答率
本校	57.0%	0.0%
全国	46.1%	0.1%

（考察）

自然数の定義について問う設問である。

本内容については、第1学年1学期に学習する内容で、中学校の数学科において基礎的な数学的知識となっているが、自然数が「正の整数」つまり0をふくまないものであるという知識が定着できていない生徒が多くいることが示された。

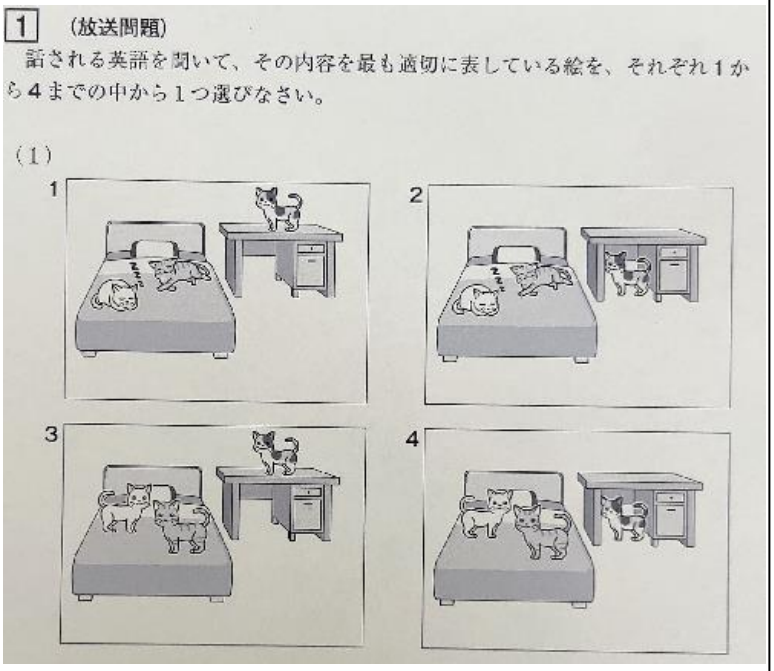
授業の中で知識について生徒に定着をゆだね、教員がしっかりと確認できていないことが原因であると考えられる。

＜英語＞

成果や課題があった設問

【成果】

絵を見てそれに合う状況を選択する



1 （放送問題）

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ１から４までの中から１つ選びなさい。

（1）

1 2 3 4

	正答率	無解答率
本校	62.1%	0.0%
全国	49.8%	0.2%

（考察）

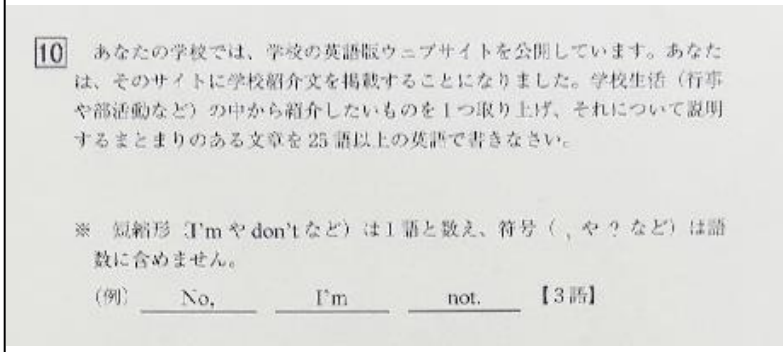
絵にあう状況として正しく述べられた英文を聞き取り解答する設問である。

買い物の場面において、細部までしっかりと聞き取りを行わないと正答に至らないが、多くの生徒が必要な情報を漏れ落ちなく聞き取ることができていた。

本校英語科では副教材の選定にあたって、リスニング力を高められるような工夫を行い、それを授業内でも活用している。このような取り組みが功を奏していると考えられる。

【課題】

まとまりを考えた英文を作成する



10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を 25 語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形（I'm や don't など）は１語と数え、符号（ , や ? など）は語数に含めません。

（例） No, I'm not. 【3語】

	正答率	無解答率
本校	12.9%	18.5%
全国	7.4%	21.4%

（考察）

自分の意見を文章のまとまりを意識して25語以上で記述する設問である。

全国的に正答率は極めて低いものの、本校の正答率から判断しても7～8人に1人程度しか正答に至っていない現状がある。

分析として、1つめは文章を書くことに慣れていないこと、2つめは自分の意見をまとめる力が不足していることがあげられる。

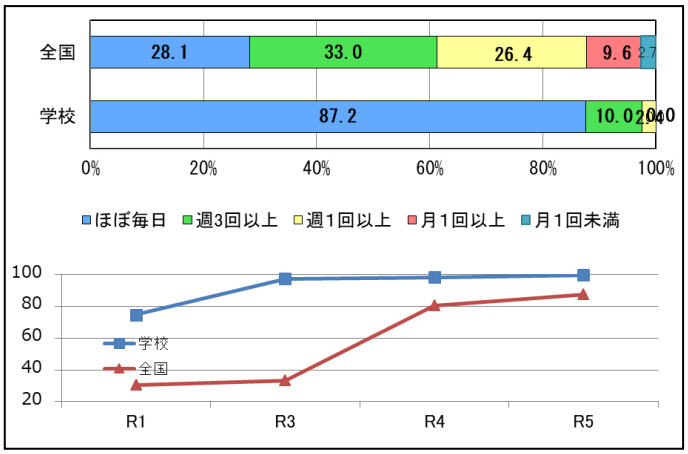
授業の中で今まで以上に「書くこと」についてもより多くの時間を割いていく必要があると考えられる。

質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

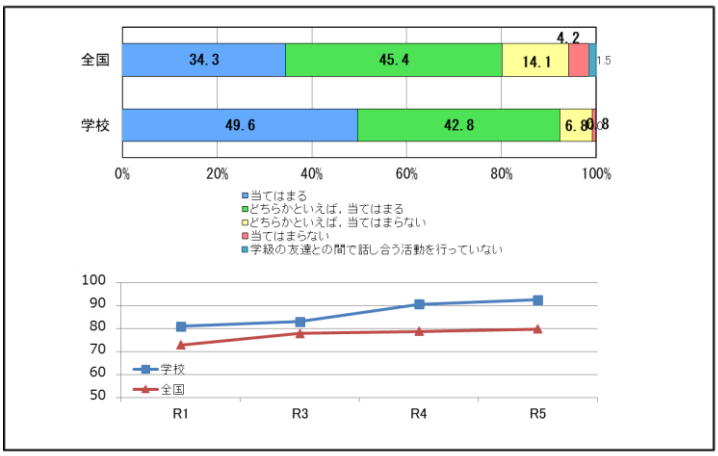
【成果のあった項目】

1、2生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。

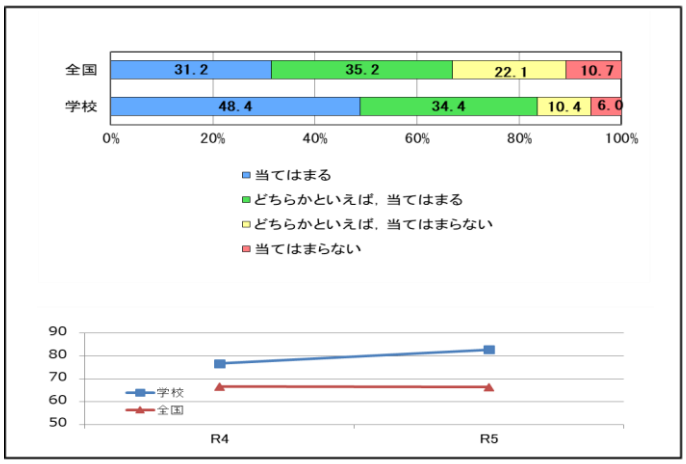


学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

全国
本校



困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



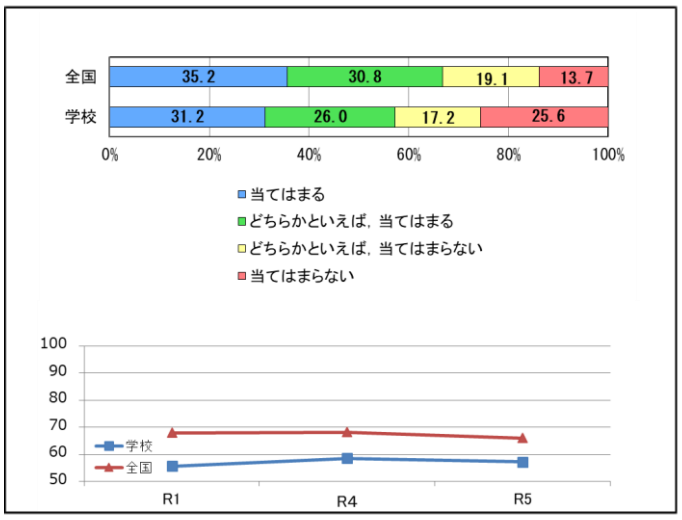
（考察）

ICT 活用については、昨年度まで実施していた文部科学省事業の成果が表れている。全国平均値が令和4年度以降急激に増加したのは、国の施策により全国すべての小中学生に ICT 端末が配備された影響である。

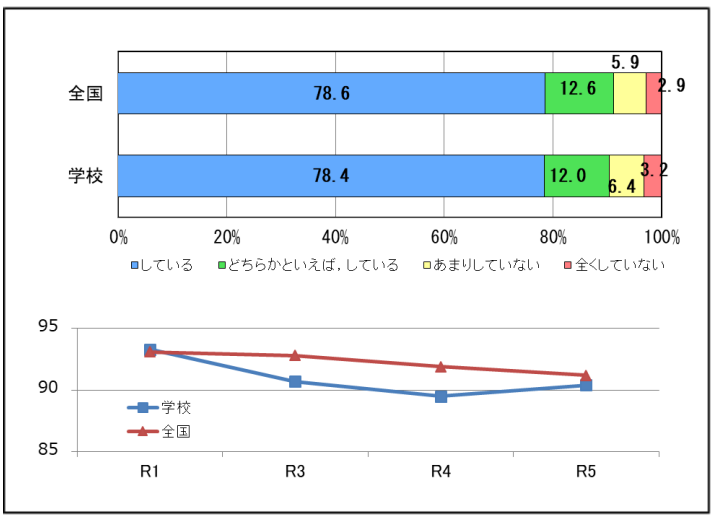
本校では班づくりに力を入れ、班長会を中心とし、学習などにも全員が参画できるような班づくりを全学級で実施しており、その成果として自分の考え方などについて、学級での話し合いなどを通して表明できる心理的安全性を確保できている成果とも考えられる。この心理的安全性は教員との関わりにも表れており、良き相談相手として生徒に関われている様子が成果としてうかがえる結果となった。

【課題が残った項目】

読書は好きですか



朝食を毎日食べている



（考察）
本校では生徒の読書習慣が課題である。読書を通して読解力や想像力などさまざまな非認知能力の定着が期待されるが、学校図書館の利用を含め、家庭での読書習慣などが定着できていないという課題が浮き彫りになった。
また、ここ数年で朝食を毎日食べていないと回答している生徒が増えている。これはコロナ禍で家庭内での生活スタイルに変化があったことも要因として推測されるが、いずれにしても、健康のためにしっかり朝食を摂取することができるよう、生徒や家庭にも声かけをしていく必要がある。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について

多くの生徒は基本的な知識の定着が図られている中ではありますが、定義などを正しく理解ができていない部分があることもわかったことから、知識・理解においても、これまで以上に丁寧な指導が必要であると考えます。そこで、各教科で知識・理解の定着（インプット）を早期に見取るための手立てとして、小テストや単元テストの実施を継続して行う必要があると考えます。令和6年度からの本格的な実施に向けて効果検証をするために、今年度については各教科会を通して、単元テストの試行実施、検証などを行ってまいります。
また、思考・判断・表現の力をしっかりと身につけていくためには、授業の中でより実践的な取り組みを行っていく必要があると考えます。具体的には、授業中の教師の発問（問いかけ）などの研究を進め、生徒がより思考できるような場面を日常的に取り入れる、また、その判断の根拠をしっかりと示せるように授業者がフォローをしていくなどです。そして、適切で効果的な場面で、生徒が自分のことばで考えを表現できる環境を意図的に取り入れるなど、より良い学習環境をめざして改善を行ってまいります。
2学期中には全教員が相互の授業参観を行い、教員1人1人の指導技術の向上をめざしていくことや教科会での指導方法の検討・検証などもこれまで以上に充実していきます。

（2）家庭学習について
家庭での学習において大切なこととして、自分の課題をしっかりと把握し、自分に足りない部分を家庭などの自学自習の場において補うことのできる「自己調整力」を養っていく必要があります。学校での日々の学習をそのままにせず、「わかった」「できた」つもりになっていないかを家に帰ってから、「自分の力だけで解決できるようにする」、そのような力が求められます。
今回の学力・学習状況調査の結果をもとに、本校では、自分に必要な学習を生徒自らが主体的に実行していけるように、教育相談の機会などをいかして個別に指導してまいります。また、各教科の授業内においても、自分のペースで学習できる時間や自分の分からないことが質問できる時間を設けるなどにより、各教科担当からも家庭学習につながるアドバイスなどを行うことができるよう指導の工夫を図ってまいります。
各ご家庭におかれましても、真の学力を身につけられるよう、新聞記事等の内容や読書習慣の必要性等にも触れていただきながら、お子様が主体的に学習に向かうような声かけをよろしくお願いします。